

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 探究学習を中核として、自己肯定感を高め主体的に自己実現に向かうことができる生徒を育成する。 2 基礎学力の向上と学習意欲の喚起を図るとともに、自分で自分の学びを調整しながら進路希望の実現にむけ粘り強く取り組む生徒を育成する。 3 保護者や地域と連携した取り組みを積極的に推進し、地域貢献できる生徒を育成する。 4 教員集団が互いの良さを認め合いながら組織的な学びの場を構築し、授業改善研修や生徒指導研修、I C T活用研修等を通じて生徒の成長を支援する。 5 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を遵守することによる、生徒と向き合う時間を確保する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ②自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ②個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①自己の可能性を肯定的にとらえ、意欲的に学ぶことができる生徒 ②地域に関心をもち、地域の自然や文化、産業に興味を持って自ら学ぶことができる生徒 ③主体的に行動し、困難を乗り越え、仲間と協力しながら、粘り強く取り組むことができる生徒 ④教室での学習活動だけでなく、課外活動にも熱心に取り組むことができる生徒	
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
大学と連携し、総合的な探究の時間の内容を充実させることができた。今後は、さらに各学年のテーマに沿った内容を計画的に行い、課題を発見し解決していく資質・能力	(1) 授業を大切にする	・到達目標を明示して、生徒に「できるようになった」を実感させる。 ・授業計画を示し、見通しをもって生徒が学習活動を行うようにする。 ・日々の取り組みを評価する。生徒は学習の改善、教員は授業の改善する。
	(2) 進路希望実現に向けた計画的な進路指導の取組を行う。	・前年度同等の大学進学率、国公立合格者を目指す。 ・公務員、就職者の内定 100%を目指す。

力の向上を図りたい。 R 6 年度の大学進学率は、45%であり前年より微増であったが、国公立大学の合格者も 5 人と前年度を上回った。進路希望実現に成果を上げた。 今後、スタディサブリ等を活用し家庭学習の習慣を身に付けさせる。 遅刻指導をした成果で遅刻者は減少した。一方で服装の乱れなど、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が、一定数おり改善に向けた取組が必要である。		(3) 生徒の自己肯定感を向上させる。	・職場見学等による職業意識の高揚を図る。 ・遅刻防止指導を行い。遅刻者を減らす。 ・身だしなみ指導を行い、高校生としての規律を守るよう指導する。 ・自転車乗車時のヘルメット着用と事故防止を図る。 ・いじめ見逃しゼロを一層推し進める。 ・生徒指導研修の充実を図り、自殺予防やいじめ防止、SNS の使い方等に関して教員のスキルアップを図る。 ・ハイリスク生徒の把握と職員間での情報共有を図る。		
		(4) 業務の改善に着手し、教員の勤務時間に対する意識を向上させ、業務量の平準化を図る	・業務仕分けを行うことにより、教員の働く意識の向上を図る。 ・特定の教員に業務が集中しないよう、組織としての見直しを行う。		
		(5) 社会貢献する志を育む教育の実践と情報の公開を行う。	・地域探究活動をより一層深化させ、郷土の資源に目を向け、その活用を図ることのできる人材を育成する。 ・地域ボランティア活動への積極的な参加を促す。 ・ホームページや note をとおして新潟東高校の魅力や生徒の活躍を発信する。		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
(1) 授業を大切にする	・到達目標を明示して、生徒に「できるようになった」を実感させる。 ・授業計画を示し、見通しをもって生徒が学習活動をできるようにする。 ・日々の取り組みを評価する。生徒は学習の改善、教員は授業の改善。	・互見授業や大学の教員を招いた研修会を行い、「わかる授業」のための授業改善をする。	A	A	
		・学校でしかできないこと、家でもできることを分け、協働的な学びと、個別最適な学びを分ける。	B		
		・ベル着を徹底させるとともに、週末課題や日常的な家庭学習課題への取り組みをとおして、学習習慣を身につけさせる。	B	B	
		・スタディサブリ等を利用して、基礎学力や受験に対応できる実践的な学力の定着を図る。	B		
(2) 進路希望実現に向けた計画的な進路指導の取組を行う。	・前年度同等の大学進学率、国公立合格者を目指す。 ・公務員、就職者の内定 100% を目指す。 ・職場見学等による職業意識の高揚を図る。	・3 年間を見通した進路学習をとおして、早い時期から自己理解に努め、学習指導、生活指導と連携しながら職業観を養うことで進路目標を明確にする。	B	A	
		・放課後の時間を活用した進学補習や夏期講習・小論文指導・面接指導などにより、個別対応を積極的に行い、進路希望を実現できる学力の養成に努める。	A		A
		・高大連携による活動、進路ガイダンス、進路だより、模擬授業体験、職場見学を通して進路意識の向上を図る。また、社会状況の変化に対応した進路情報を随時提供し、学習意欲を高めることで進路実現を目指す。	A		
(3) 生徒の自己肯定感を向上させる。	・遅刻防止指導を行い。遅刻者を減らす。 ・身だしなみ指導を行い、高校生としての規律	・遅刻を昨年度の半分に減らすために、欠席した生徒に対しては担任を通じて保護者との連絡を密にし、情報の共有を図る。	B		
		・挨拶及び遅刻指導、校外自転車指導を実施する。	B		

	を守るよう指導する。 ・自転車乗車時のヘルメット着用と事故防止を図る。 ・いじめ見逃しゼロを一層押し進める。 ・生徒指導研修の充実を図り、自殺予防やいじめ防止、SNSの使い方等に関して教員のスキルアップを図る。 ・ハイリスク生徒の把握と職員間での情報共有を図る。 ・校内の美化に努める。	・学年毎の頭髪服装検査、及び服装チェック指導を実施する。 ・警察と連携しスケアードストレートを実施し交通安全への意識を高める。 ・個人面談やアンケート調査により、いじめについての情報を共有し、早期発見、早期対応を図る。 ・年3回の生徒指導研修に加え、SCと情報共有を密に行い、多面的に生徒の状況把握に努め組織的な教育相談を行う。 ・学校行事や部活動、生徒会活動をとおして、生徒が主体的に活動する場面を増やし、生徒の成長を支援する。 ・教室等の校内美化を徹底するとともに、月1回保健だよりを発行し、感染症や自己の健康管理など健康・安全についての情報を提供する。	A A A A A B	A A A A A B	A A A A A B
(4) 業務の改善に着手し、教員の勤務時間に対する意識を向上させ、業務量の平準化を図る	・業務仕分けを行うことにより、教員の働く意識の向上を図る。 ・特定の教員に業務が集中しないよう、組織としての見直しを行う。	・学校閉庁時間の見直しを行うことや定時退庁日を設定し、教職員の勤務時間に対する意識改革を進める。 ・グループウェアの掲示板や共有フォルダを効率的に活用するとともに、効率的に情報共有を行い業務がスムーズに進むようにする。 ・部活動数の見直しや部活動指導の適正化を図る。 ・ICTを活用し、業務の効率化を図る。 ・休暇を取得しやすい雰囲気を作り出し、早出遅出勤務がしやすい体制にする。	A A A A A A	A A A A A A	A A A A A A
(5) 社会貢献する志を育む教育の実践と情報の公開を行う。	・地域探究活動をより一層深化させ、郷土の資源に目を向け、その活用を図ることのできる人材を育成する。 ・地域ボランティア活動への積極的な参加を促す。 ・ホームページやnoteをとおして新潟東高校の魅力や生徒の活躍を発信する。	・高大連携を利用して、学びの過程を意識づけさせ、仲間と協働して「問い」を立て正解のない課題に対して解決する力を身に付けさせる。 ・地域の方々に探究活動で学んだ成果を発表し助言をもらうことで、「問い」に対してより良い解決策を模索する。 ・地域からのボランティア活動の要請に応え、地域と密着した活動を行う。 ・ホームページの更新やnoteを週2回程度更新し、新潟東高校の魅力や新潟東高校生の魅力を発信する。	A A B A	A A A A	A A A A
成果		単元テスト期間や特別編成授業を整備し、生徒一人一人を大切にしていた指導を行い生徒の学びに繋げた。また、noteでの情報発信を頻繁に行い、学校の活力と魅力を発信した。	総合評価 A		

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和 7 年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

- ・ 予想困難な時代の中、探究活動を中心に据えているのは素晴らしい。
- ・ 教育課程の変更はよいと思う。高校生になって将来を見据えて学習してほしい。
- ・ 生徒の挨拶がよく、ヘルメットの着用も増えてきた。
- ・ ボランティア活動、ありがとうございます。
- ・ 一人ひとりに対話するような授業だった。
- ・ 交通事故の加害者にならないように自転車のマナーを向上してほしい。
- ・ ヘルメットの着用率を上げてほしい。
- ・ 自校に誇りを持てる生徒をもっと増やしてほしい。
- ・ ボランティア活動をもっと広めて地域連携を進めてほしい。
- ・ 中学校の部活動が地域移行する中、中学校と高校が連携できる方法を模索してほしい。

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和 7 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
（１）授業を大切にす る	・ 沖縄県立芸術大学の准教諭を招いて「協働的な学びの推進」という題目で研修会を実施し、互見授業を実施し一定の効果が見られた。 ・ 学校生活アンケートで生徒の満足度が「良い」「とても良い」が 80%を超えた。
（２）進路希望実現に 向けた計画的な進路指 導の取組	・ 前年より国公立大学の進学者数は減少したが、大学等への進学率は向上した。引き続き生徒の進路希望を達成できるようにしていく。ビジネスアイデアコンテストやSDGs QUEST等校外のコンテスト等にも参加し成果を上げた。
（３）生徒の自己肯定 感を向上させる。	・ 生徒に寄り添い生徒が安心して学習できる環境を整える。病気療養中に対する生徒や不登校傾向がある生徒のへも課題や遠隔授業を行い、学びを継続させた。 ・ スケアードストレートを活用した交通安全教室等を行い、自転車事故の件数が大幅に減少した。
（４）業務の改善に着 手し、教員の勤務時間 に対する意識を向上さ せ、業務量の平準化を 図る	・ 毎週定時退庁日を設定し、退庁しやすい職場環境を作った。 ・ 年度末に閉庁時間の見直しや 50 分授業への変更を行った。放課後にゆとりを生むことで生徒への指導をしながら職員が帰りやすいようにした。 ・ 特定の教員に業務が集中しないよう、担任と副任の業務の業務分担を行った。
（５）社会貢献する志 を育む教育の実践と情 報の公開 を行う。	・ ボランティアや校外の探究コンテスト等へ参加を積極的に行っていく。 ・ より地域や外部と密着した探究活動を行い、生徒の学びにつなげていく。